

「おもいでぐさ」から四大精神を読み解く

—だい先生の真心・努力・奉仕・感謝—

Consideration of the four major spirits from "Omoidegusa"

—How did Mrs. Dai think about sincerity, effort, service, and gratitude?—

木村 典子 Noriko Kimura
(愛知学泉短期大学生生活デザイン総合学科)

菅瀬 君子 Kimiko Sugase
(愛知学泉短期大学生生活デザイン総合学科)

秦 真人 Mahito Hata
(愛知学泉短期大学生生活デザイン総合学科)

杉浦 菜穂子 Nahoko Sugiura
(愛知学泉短期大学生生活デザイン総合学科)

大森 有希乃 Ukino Ohmori
(愛知学泉短期大学生生活デザイン総合学科)

村上 拓也 Takuya Murakami
(愛知学泉短期大学生生活デザイン総合学科)

小山田 尚弘 Naohiro Oyamada
(愛知学泉短期大学生生活デザイン総合学科)

長谷川 えり子 Eriko Hasegawa
(愛知学泉短期大学生生活デザイン総合学科)

千賀 敬之 Takayuki Senga
(愛知学泉短期大学生生活デザイン総合学科)

江良 友子 Tomoko Era
(愛知学泉短期大学生生活デザイン総合学科)

抄 録

「寺部だい自伝 おもいでぐさ」のテキストマイニング分析をおこない、四大精神「真心」「努力」「奉仕」「感謝」の文書を取り出し考察した。結果、「真心」17、「努力」33、「奉仕」23、「感謝」21 文書数あった。1つの文で、四大精神を関連して示していた。頻出語で「母」があり、各々の章で出現していた。だい先生のお母さまへの強い気持ちが伺われ、この気持ちが「真心」であり、夢を実現していった原動力となっていたのではないかと思われた。「終わりに」でよく使われている「感謝報恩」の語には、だい先生の「真心」「努力」「奉仕」「感謝」がすべて含まれるように思われた。

キーワード

テキストマイニング分析(text mining analysis)、おもいでぐさ(Omoidegusa)、四大精神(the four major spirits)、真心(sincerity)、努力(effort)、奉仕(service)、感謝(gratitude)

目 次

- 1 はじめに
- 2 研究目的
- 3 研究方法
- 4 結果と考察
- 5 おわりに

1 はじめに

「おもいでぐさ」は創立者である寺部だい先生の半生と学園のあゆみが説明されている。だい先生の半生からは厳しい生活環境の中、お母様と一緒に生き抜いた力強さ、苦学の中、勉強を続けていく様子、女子教育への強い思いと学校の設立が描かれている。

学園のあゆみでは、大正から昭和時代、学令が変遷する中、農村地域の安城に、女子教育の学校を設立の過程をはじめに、学園の発展が描かれている。

お母様とだい先生が自分たちに度重なる不運に、運命を変えようとしてかけた「善光寺参り」の帰り、字が読めたことで命が救われ、教育への繋がりになった。

お母様への恩を返しは、小学校教員になるとことと決め、意志を貫くため、車夫をして、食を削って、東京で勉強を続けようとする努力には感動する。

三河地域で、女子教育のための塾・学校設立を目指すだい先生の強い思いと、東京、安城での人の出会いを大切に進めていかれた。

「おもいでぐさ」を読み、それぞれ、心を動かされる場面の違いはあるだろうが、だい先生の力強さは伝わると思う。

生活デザイン総合学科では、意図した四大精神の育成に、1年次の科目「学びとライフプランニング」の前期に「おもいでぐさ」の感想の提出、後期にテーマ「創立者の思いを知る」で、寺部暁理事長先生、菅瀬君子先生に講話をしていただき、2年次では総合ゼミナールの活動を通して、四大精神を振り返ることをしてきた。

四大精神にある「努力」と「感謝」について、矢野¹⁾は幸福度に関係していると明らかにしている。仕事の成功、人間関係、健康、寿命にも影響している。学生達が将来においても、幸せに生きていくために四大精神は必要な概念であると考ええる。

今回、「おもいでぐさ」のテキストマイニング分析にて、場面ごとに言語、言語の使われ方を考察していくことを通して、だい先生の生き方、伝えたかったことを探索し、四大精神との関連を考察する。次に、学生への教育に結びつける資料とする。

2 研究目的

「おもいでぐさ」のテキストマイニング分析を通して、だい先生が伝えたかったことを考察することを通して、教育に結びつける資料とする。

3 研究方法

3.1 分析対象と方法

「寺部だい自伝 おもいでぐさ」平成11年改訂をKH Coderを活用して、解析と客観化を試みた。

樋口²⁾を参考に、「おもいでぐさ」を三段階にて、分析を進めた。テキストマイニング分析にはソフトKH Coder 3b03g.exeを使用した。

3.2 KH Coder

KH Coderは、立命館大学の樋口耕一先生により開発され、社会学の分野での利用が想定された内容分析およびテキストマイニング用のソフトウェアである。文書形式のデータに含まれる語を自動的に切り出し、多変量解析することによって全体を要約、提示することができ、全体傾向を把握することができる。

また、どのような語が抽出されているかを検索する機能、元のテキストデータ中で語が用いられているか文脈を確認するためのコンコーダンス機能が備わることにより、文脈に立ち返り確認することができる。そのため、計量分析と原文解釈とを循環させる分析プロセスを実践できるソフトである³⁾。

3.1 分析方法 段階1

自動抽出した語を用いて、恣意的になりうる操作を避けながら、データの様子を探る。

多く出現した語の確認、語と語の結びつき、テキストの部分ごとの特徴、内容が似た文書の群を探る。

KH Coderのコマンドの「抽出語リスト」「抽出語検索」「共起ネットワーク」「クラスター分析」を使用する。

3.2 分析方法 段階2

主体的かつ明示的にデータの中から、四大精神である「真心」「努力」「奉仕」「感謝」を取り出し、分析を深める。

四大精神である「真心」「努力」「奉仕」「感謝」のコーディングルールを作成し、多く出現していたコードの確認、コード間の結びつき、テキストごとの特徴を探る。

KH Coderのコマンドの「単純集計」「類似度行列」「共起ネットワーク」を使用する。

3.3 分析方法 段階3

元のテキストに戻って、計量的な分析の意味するところを確認する。

「真心」「努力」「奉仕」「感謝」に関連した注目すべき語の本文中での使われ方を確認する。

4 結果と考察

「おもいでぐさ」の原文をわかりやすくするために斜線文字で示し、く　　>をつけた。

4.1 文書単純集計

KH Coderにて、総抽出語数 25723 語、異なり語数 3868 語であった。分析に総抽出語数 8804 語、異なり語数 3307 語が使用された。

4.2 段階 1 頻出語

頻出語リストを表 1 に示した。出現回数が 10 回以上で、語全体の 19.1%であった。最も多い頻出語として「母」104 回、次に「学校」87 回であった。

「母」は「章 わたしの生い立ち」で、特に頻出しており、だい先生の母への強い思い入れが伺われた。

<「母」は今も、ありし日のままの姿で私の全身全霊の中に生きておられ・・・>

<「母」と娘とふたりの旅路。どんなに険しくても手に手を取って一生歩きつづけよう。母の愛は、遂に私をその手許につなぎ止めました>

<ほーい！と耳にしたさで呼んだ、「母」のその声の返ってきた時のよろこび。今も身体の中が熱くなってくる思いがいたします>

<勉強して立派な人になることだ。それが「母」への一番の恩返しだ。当時、私の考えた一番立派な人という理想像は小学校の先生でありました>

<私におそいかかって来る苦難の道は、いつまでつづくのか分らないが、小さい時から、「母」とともにこれに堪え抜くことに慣れてきた>

<家庭科教員として、赴任することになりました。月俸二十円でした。やっと念願を果して、「母」を喜ばせることができたのです>

4.3 段階 1 共起ネット

語の共起ネットを図 1 に示した。11 サブグラフにわかれた。

図 1 の右下の 4 つのサブグラフは結びつきがある。

女子教育のための裁縫を中心として女学校を設立したことであった。あとの 7 つのサブグラフはそれぞれ独立していた。

章ごとの共起ネットを図 2 に示した。「わたしのおいたち」の章では「母」、「学園のあゆみ」では「学

校」と「先生」、「諸言」と「おわりに」では、「学園のあゆみ」と関連するものの、「女子教育」や「将来」へのことが伺われた。

4.4 段階 2 コーデングルール

「おもいでぐさ」に語として出現する「真心」0 回、「努力」2 回、「奉仕」3 回、「感謝」6 回であった。それぞれの使われ方をテキストに元って確認をした。次に、愛知学泉短期大学版 教育システム「学びの泉」『智性・徳性・身体・感性・行動』を鍛える教育学泉ノート、生活デザイン総合学科教員への四大精神の教育についてのアンケートと話し合いでの意見を参考に、四大精神に関連する語をコーディングする操作をおこなった。

関連する語が入っているテキストとした。

例えば、文中に、「真心」のコーディングルールのある「気持ち」「純粹」などの語があれば、四大精神の一つである「真心」を示す文とした。コーディングルールは以下にした。

「真心」のコーディングルール

気持ち or 純粹 or 心 or 真面目 or 上手く立ち回る or 思いやり or 共感 or 聞き上手 or 努力 or 平等 or 寄り添う or 決断力 or 大切 or よい行い or 一生懸命 or 真実 or 真心

「努力」のコーディングルール

目的 or 尽くす or 心 or 目標 or 実現 or 思いやり or 夢 or 強い思い or 当たり前 or 謙虚 or 乗り越える or 能力 or 磨く or 続ける or 継続 or 情熱 or ポジティブ or 我慢 or 克服 or 真面目 or 努力

「奉仕」のコーディングルール

奉職 or 奉仕 or 損得 or 目標 or 社会 or 尽くす or 好意 or ありがたい or 親切 or 恩返し or 喜び or 好き or 影響 or 声かけ

「感謝」のコーディングルール

感謝 or ありがたい or お礼 or 他人 or ありがとう or お世話 or 支える or 誰かのためになる or 前向き or 周囲 or 思いやり or 気持ち or 助ける or 意識 or 相手

4.5 段階 2 コーデング対応分析

コーディングルールにもとづき、分析を進めた結果、総文書数 887 中、「真心」に関連する文書数は 17、「努力」に関する文書数は 33、「奉仕」に関する文書数は 23、「感謝」に関する文書数は 21 であった。

図3、表2に、節ごとで、四大精神に関する文の数などを示した。「真心」は節の「夜学の七年につづいて」4文書、「努力」は「女子専門学校 準備期」8文書、「奉仕」は「女子専門学校 準備期」6文書、「感謝」は「終わりに」7文書全体の節の中で最も出現していた。

図4、表3は四大精神間の関連を文の出現の重なりをJaccard係数で示した。図では関連が強いと線が濃くなっている。「真心」と「努力」「奉仕」と感謝「奉仕」と「努力」は文書中で関連があることがわかる。つまり、「おもいでぐさ」の同じ文で、「真心」や「努力」に同時に意味する文があるということである。「感謝」は、他の3つと比べ、関連がやや弱い結果となった。表2のカイ2乗値が示すように、各節での使われ方が違うことがあるためと考えられた。

4.6 段階3 「真心」「努力」「奉仕」「感謝」に関するテキストから

段階2のコーデングルールの「真心」「努力」「奉仕」「感謝」の一部テキストを示す。テキストに番号を「真心」の一番目のテキストは(真1)とつけた。

「真心」に関連するテキストは(真1)～(真6)である。

(真1) <その当時、女性にとって髪の毛がどんなに大切なものであったか、現代の若い方方には想像も及ばないことでしょうか、男なら自ら首を切り落して申訳を立てるところを、女は髪をその代りにするといふほど大切なものでした>

(真2) <これからも、どんな困苦にも押し倒されることなく、常に感謝の心をもって、切り開いてゆきたいと思立った自分の道は、必ず貫徹したいから、国へは帰らない>

(真3) <この難関に追い詰められた時、私はまことに申し訳ないこととは存じましたが、心を鬼にして、主人に向かってあなたの年金と恩給の証書を私に貸して貰いたい>

(真4) <精神修養と礼儀作法を第一として、学校生活を充実させ、努力精進したものです>

(真5) <心静かに、八十年を回想し、反省いたしまして、万感が去来いたしますが、しみじみと私の胸に迫るものは・・・・>

(真6) <その間、多数の卒業生諸姉の努力と活躍による実績などが信用の主流となりまして、どうやら世間からも認められるようになり、わが国の文化の向上にいささか寄与貢献して参りました>

(真1)はお母さまの心意気、覚悟といった真の気持ちを態度で示している内容である。

(真2)(真3)はだい先生の決意、夢に向かっての決意を表している。

(真4)はだい先生への教育への取り組み姿勢、気持ちがあらわされている。

(真5)(真6)はだい先生が80年間、一生懸命、思いをもって生きてこられ、そこで出会った人たちへの気持ち、「感謝」でしかないといった気持ちが伺われた。

「努力」に関連するテキストは(努1)～(努17)である。夢に向かって努力すること、失敗しても、努力し続けるといったテキストとなった。だい先生の努力と周囲の努力が含まれていた。

(努1) <心静かに越し方を振返って、春風秋雨八十年にわたるその足跡を整理してみる暇もなく、まことにあわただしく過して参りましたので・・・・>

(努2) <こうした難行苦行を続けること約二月・・・>

(努3) <二回失敗した受験友達に、小林さんという人があり、同じ目的に生きる二人は姉妹のように親しく励まし合い、翌年三度目の受験をしたところ、またまたふたりとも落されて悲観いたしました>

(努4) <私は一旦は、途方に暮れたのですが、たちまち悲壮な勇猛心らしいものが湧き起って・・・・>

(努5) <これからも、どんな困苦にも押し倒されることなく、常に感謝の心をもって、切り開いてゆきたいと思立った自分の道は、必ず貫徹したいから、

国へは帰らない

(努6) <しかし、どうしても修了しておかなくては駄目だと痛感しましたので、次の予科入学期に再入学し>

(努7) <内職の方は、そのまま続けていましたので四、五か月は続いたが、またまた中退の憂目を見た・>

(努8) <明治三十八年十一月、一応の目的を達して、高等科を卒業することができました>

(努9) <私は、この難関を乗り越えるために一段上の甲種中等程度実業学校への昇格を決意しました>

(努10) <矢作町に、男子を対象とする高等学校を創設することとなり、鋭意その経営に任じて、所期の目的を達成するため、大きな抱負をもって、着着その準備に当たっております>

(努11) <現在私の夢に描いている、各種の学部を併せた大学と短大を中心とする、完備した女子総合学園を建設して、国の文化に寄与したいと念願して>

表1 頻出語リスト

No	抽出語	出現回数	No	抽出語	出現回数	No	抽出語	出現回数	No	抽出語	出現回数
1	母	104	24	手	18	47	受験	13	71	国家	11
2	学校	87	25	女学校	18	48	塾	13	72	十月	11
3	裁縫	43	26	校舎	17	49	卒業	13	73	心	11
4	先生	38	27	四月	17	50	必要	13	74	専門	11
5	当時	36	28	自分	17	51	立つ	13	75	知る	11
6	人	34	29	村	17	52	教授	12	76	道	11
7	生活	34	30	本校	17	53	経営	12	77	婦人	11
8	安城	32	31	目	17	54	見る	12	78	普通	11
9	女子	32	32	夜	17	55	更に	12	79	頼む	11
10	家	31	33	学生	16	56	高校	12	80	力	11
11	教育	29	34	試験	16	57	仕事	12	81	一切	10
12	高等	29	35	父	16	58	資格	12	82	学科	10
13	女	28	36	毎日	16	59	次第に	12	83	毅	10
14	入学	28	37	学園	15	60	出る	12	84	合格	10
15	小学校	26	38	帰る	15	61	将来	12	85	指導	10
16	今	25	39	教室	15	62	上京	12	86	出す	10
17	教員	22	40	時代	15	63	早速	12	87	身	10
18	申す	22	41	前	15	64	多い	12	88	遂に	10
19	思う	21	42	現在	14	65	中等	12	89	短大	10
20	受ける	21	43	考える	14	66	娘	12	90	通う	10
21	東京	21	44	師範	14	67	理事	12	91	入れる	10
22	生徒	20	45	早い	14	68	家事	11	92	勉強	10
23	子供	19	46	入る	14	69	関係	11	93	与える	10

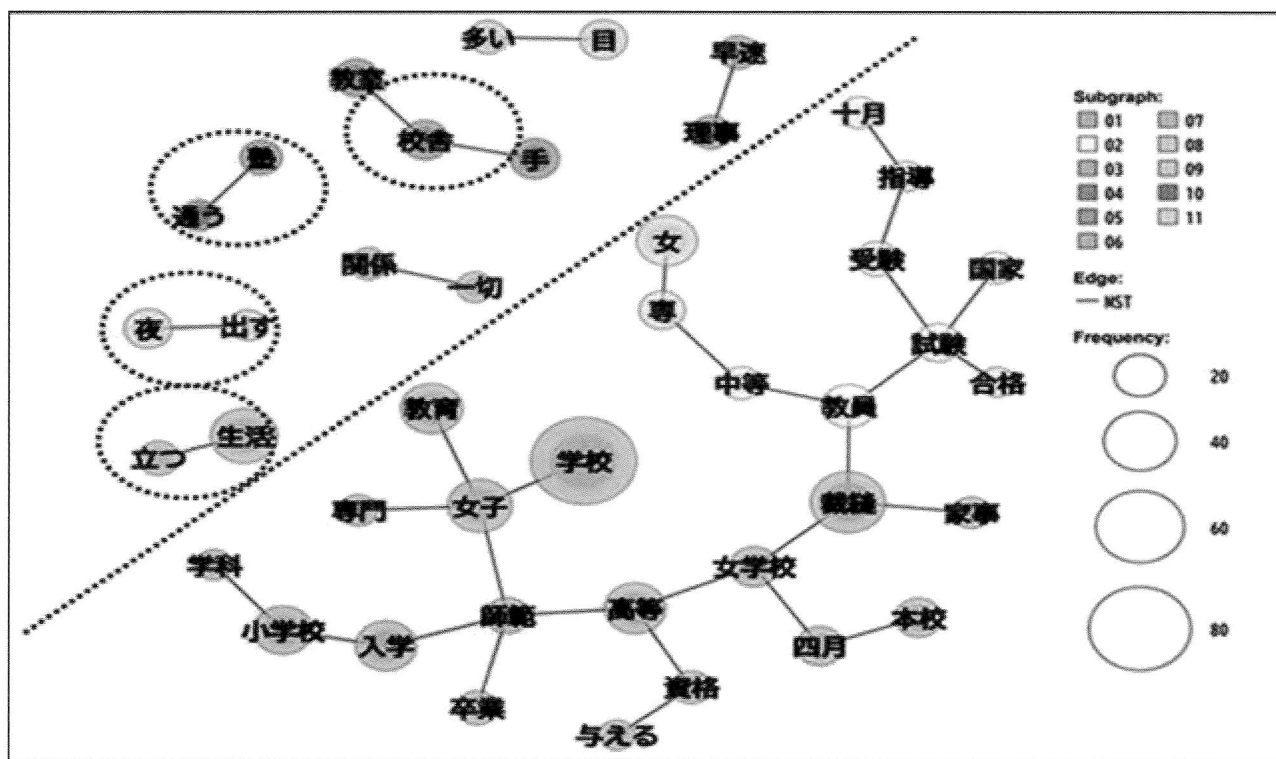


図1 語の共起ネット

表 2 節ごとの四大精神の出現数

	真心	努力	奉仕	感謝	ケース数
学への第一歩	1 (1.54%)	2 (3.08%)	2 (3.08%)	2 (3.08%)	65
学園の現況と将来への抱負	0 (0.00%)	2 (7.14%)	1 (3.57%)	0 (0.00%)	28
裁縫女学校時代に一步	0 (0.00%)	0 (0.00%)	0 (0.00%)	0 (0.00%)	28
思いを新たにして 女子職業学校へ	2 (2.30%)	4 (4.60%)	2 (2.30%)	1 (1.15%)	87
私の誕生	1 (2.94%)	2 (5.88%)	1 (2.94%)	1 (2.94%)	34
終りに	2 (5.88%)	2 (5.88%)	2 (5.88%)	7 (20.59%)	34
諸言	1 (11.11%)	1 (11.11%)	0 (0.00%)	0 (0.00%)	9
女子専門学校 準備期	2 (1.18%)	8 (4.73%)	6 (3.55%)	2 (1.18%)	169
善光寺詣り	0 (0.00%)	1 (2.44%)	3 (7.32%)	1 (2.44%)	41
卒業、就職、結婚	1 (2.38%)	2 (4.76%)	0 (0.00%)	0 (0.00%)	42
短期大学へ、高等学校へ 新制度に切换え	1 (2.33%)	0 (0.00%)	1 (2.33%)	0 (0.00%)	43
東京での苦学	2 (1.53%)	4 (3.05%)	4 (3.05%)	3 (2.29%)	131
乳呑児を抱えた母	0 (0.00%)	0 (0.00%)	0 (0.00%)	0 (0.00%)	51
夜学の七年につづいて	4 (4.30%)	5 (5.38%)	1 (1.08%)	2 (2.15%)	93
呱呱の声 裁縫の家塾	0 (0.00%)	0 (0.00%)	0 (0.00%)	2 (6.25%)	32
合計	17 (1.92%)	33 (3.72%)	23 (2.59%)	21 (2.37%)	887
カイ 2 乗値	14.205	11.062	11.188	57.591**	

**p<0.01

表 3 四大精神の Jaccard 係数

	真心	努力	奉仕	感謝
真心	1.00	0.75	0.67	0.58
努力	0.75	1.00	0.75	0.67
奉仕	0.67	0.75	1.00	0.73
感謝	0.58	0.67	0.73	1.00

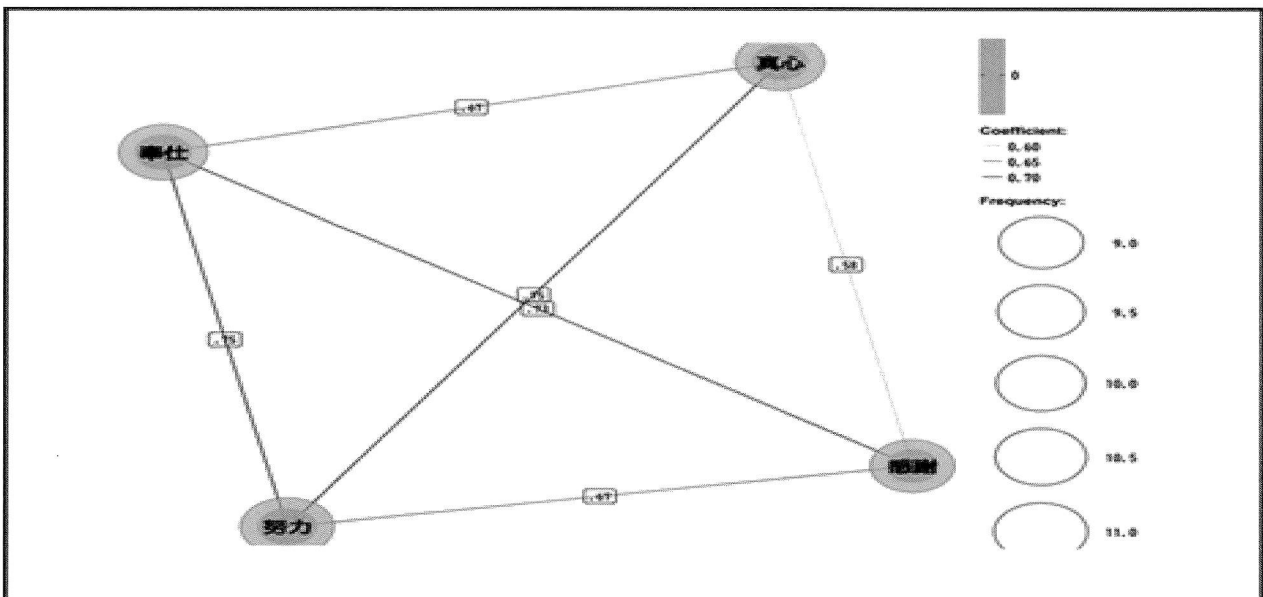


図 4 四大精神間の関係

(努12) <農村における女子教育としては、このように、農業と家事を直結させることができてはじめてその目的が達せられる>

(努13) <私の夢はこの家政学部だけに止まることなく展開してゆきます>

(努14) <何何学部、へと夢は際限もなく続くのです>

(努15) <その間、多数の卒業生諸姉の努力と活躍による実績などが信用の主流となりまして、どうやら世間からも認められるようになり、わが国の文化の向上にいささか寄与貢献して参りました>

(努1) は一生懸命、息つく間もなく、80年、奔走してきた様子、継続し続けたことが努力の様子として伺える。

(努2) は善光寺参りの道すがらの様子を示したテキストであるが、苦難苦行の状況であっても、あきらめないという内容を示している。

(努3)～(努8) は教員になることで、母への恩返しとし、それを夢、目標にして、幾度と失敗しても、あきらめず、努力し続ける様子が示されている。

(努3)～(努15) は女子教育から始まり、学園を拡張し続けていく様子が示されている。

(努15) では、だい先生が夢、目標をもち、努力してきた過程で、支えて人たちの努力について示されている。

奉仕に関連するテキストは(奉1)～(奉12)である。奉仕は身につけた知識、自身のもつ能力を社会へ還元していくこと、お世話になった人への恩返し、働くことを示していた。

(奉1) <母は、まさしく善光寺様のおみちびきと喜びの涙をたたえてかきのお宿へ急いだのであります>

(奉2) <母は文字のありがたさを身をもって感じ取ったのです>

(奉3) <それが母への一番の恩返しだ>

(奉4) <石川家の親身の御好意により、同家から通学させて頂くことになりましたが、私は他の学生のように、電車通学などお金の余裕がありませんので、京橋から本郷東竹町まで、徒歩で通学し、また、夜は九段坂下まで歩いて、夜学に通いました>

(奉5) <いずれも臨時検定を受けるのですが、続々と合格してそれぞれの学校へ奉職してゆきました>

(奉6) <中等学校以上の学校は、それぞれ、報国隊を結成して、主として軍需工場へ動員され、小学生も農村へ勤労奉仕に出かけたのであります>

(奉7) <昭和二十年四月、殆ど全校学生生徒が、他へ動員されている中に、新学期は始まったものの、新

入生などは学校の跡片付くと、農事奉仕と、空襲下の退避にのみ明け暮れた学校生活でした>

(奉8) <私は・・・・・・、愛知県社会教育委員に委嘱され戦時中の生活必需品の国産愛用を説き、衣はすべて廃物利用、食は玄米食実行など、すべて物資節約の話を五、六年にわたって各地で講演したのでした>

(奉9) <旧女専の卒業生は、中等教員の免許状を与えられて、旧制の中等学校に奉職いたしましたので、そのまま新制高等学校教員免許状に切換えられて、高等学校の先生になりました>

(奉10) <私といたしましては、悠(ゆう)久の宇宙の一角に無限の時間の一点に、まことにありがたくも勿体(もったい)ない生命を与えられまして、私なりの一生を送らせていただき、人間としての幸福に限りない喜びを味わっているのでございます>

(奉11) <社会の恩に対してその原動力である目に見えない神のみ恵みに対し、関係者一同は、常に感謝報恩の念を忘れてはならないのであります>

(奉12) <耕作以外にも、春(はる)蚕(こ)、夏蚕、秋蚕、とほんの僅かではありましたが、養蚕を副業の一つにして、家計を助けました>

(奉1)(奉2) では善光寺参りの出来事であり、仏に仕える、善行したことでの、ありがたいお導きと捉えることができる。

(奉4) はお母様、東京での生活を支えてくれている人のために勉学に励むことが恩返しであり、奉仕であると考えられる。

(奉5)(奉8)(奉9) は身につけた知識、経験を社会へ還元していく教育としての活動が示されている。

(奉6)(奉7)(奉12) は戦時下、人々が社会のため、自分の能力を活かすことが示されている。

(奉10)(奉11) は感謝報恩の語が示すように、自分の生命、仕事が生きてきたことは、社会の多くの人の恩恵によるもので、それに対して、その恩に報いるためにも一生懸命働かないといけないといったことをしめしているであろう。

感謝に関連するテキストは(感1)～(感13)である。

(感1) <母は文字のありがたさを身をもって感じ取ったのです>

(感2) <こうして、私は学の道へ一步を進めることができましたのですが、大体私のような哀れな境遇の者が、学校へ通うなどということは・・・・>

(感3) <これからも、どんな困苦にも押し倒されることなく、常に感謝の心をもって、切り開いてゆきた

いと思いついた自分の道は、必ず貫徹したいから、
国へは帰らない>

(感 4)<一度、断わられても、屈することなく、繰返
し哀願しましたところ、最初、私をからかっていて
相手にしなかったこの車屋の主人は、次第に涙ぐん
で・・・>

(感 5)<食事が十分でなかったので、毎週土曜日から
月曜日の朝までは、京橋のお米屋さんの所に出かけ
ていってお世話になり、満腹感を覚えるのが常でし
た>

(感 6)<それで貰えた金は、ことごとく、仏様への御
供養に捧げて、悦びと感謝の日々を送っていたので
す>

(感 7)<実に、私が東京で苦学していた時、格別のお
世話をいただいたことのある、本郷の男爵家だった
のです>

(感 8)<男装車夫を見破られた出来事が御縁のきっか
けとなって、奥向きの洗濯ものから仕立物の下仕事
をお受けして、私の学費を助けていただいていたの
でありました>

(感 9)<私といたしましては、悠(ゆう)久の宇宙の一
角に無限の時間の一点に、まことにありがたくも勿
体(もったい)ない生命を与えられまして、私なりの
一生を送らせていただき、人間としての幸福に限り
ない悦びを味わっているのでございます>

(感 10)<行住坐臥(が)、ただただ感謝あるのみで・>

(感 11)<感謝報恩の気持が身内に、異常な力を湧き
立たせてくれるのではないのでしょうか、そして今ま
でと同じく、あるいは更にそれ以上の多くの人人の
お力に助けられて導かれてゆくことをごさいますよ>

(感 12)<社会の恩に対してその原動力である目に見
えない神のみ恵みに対し、関係者一同は、常に感謝
報恩の念を忘れてはならないのであります>

(感 13)<過去から現在にわたり、本学園のために陰
に陽に、何かと、御指導と御援助を賜りました全
国の関係各位を始め、幾百の教職員、幾千の卒業生
諸姉の皆皆様に、心からなる感謝を捧げるもので
あります>

(感 1)は文字が読めた、標識があった、母子の命が救
われたことの感謝を示している。

(感 2)(感 3)不遇な環境下におかれていても、勉強が
できることへの感謝を示している。

(感 4)(感 5)(感 7)は東京での苦学を支えてもらった
人への感謝と人との出会いが次の出会いに繋がって

いった感謝が示されている。

(感 6)(感 9)~(感 12)は自身の存在が、ここまでのあ
り様、示すことのできない力によるもので、それら
に対する畏敬の念がこめられている感謝が示されて
いる。

(感 13) 支えてくれた人、すべての人への感謝がこ
められている。

以上、コーデングルール、テキストに戻りながら、
四大精神に対しての考えを述べてきた。

4.7 教育への示唆

「おもいでぐさ」のテキストマイニング分析をし
て、読み解くことをしてきた。テキストの意味を考
えることが、四大精神の理解につながると思われた。

学生達が「おもいでぐさ」を読んで、思うことを
言語化し、発言していくことからはじめ、四大精神
の理解に繋げていくとよいと思われた。学生間での
考えを議論、共有することが、四大精神の理解への
深化につながると考える。

授業展開として、テキストマイニング分析の結果
を一部学生に示しつつ、学生が理解しにくい「真心」
「奉仕」、四大精神のすべてが網羅されると思われる
「感謝報恩」を中心に行っていきたいと考えている。
また、四大精神は各々が関連している語であり、そ
れが人生のありよう、幸福感につながることも伝え
ていきたいと考える。

5 おわりに

テキストマイニング分析を試みて、恐れ多いとは思
ったが、「おもいでぐさ」を科学的に見てみた。

新たな知見を得ることができたと考える。四大精
神は各々が関連していることが分析を通してわかっ
た。読んだときには素通りしていった語、文が多く
あった。

「感謝報恩」「感謝報恩の気持が身内に、異常な力
を湧き立たせてくれる」「成長は、人の力によるもの
である」は、学生達に伝えていきたい言葉ある。

だい先生の半生を描いた「おもいでぐさ」である
が、これからの人生を生きていくあたり、力を与え
るもの、考え方を導くものがあると思われる。

愛知学泉短期大学で学んだことの一つとして、学
生達に心に留められるような働きかけをしていき
たと考える。

謝辞

この研究は令和3年度 愛知学泉短期大学学内G
P事業研究助成金の交付を受けたものであります。
テーマ:建学の精神に関する取り組み、建学の精神を
身に付けるための教材開発のその研究の一部です。

寺部暁理事長先生、安藤正人学長先生に改めてこ
こに感謝いたします。

参考文献

- 1) 矢野和男, データの見えざる手-ウェアラブルセンサが明か
す人間・組織・社会の法則, 草思社 2014.
- 2) 樋口紘一, 社会調査のための計量テキスト分析, ナカニシヤ
出版, 2014.
- 3) 2)前項

(原稿受理年月日: 2021年9月13日)